

特集
Special

レポート
Report

インタビュー
Interview

エッセイ
Essay

レクチャー
Lecture

オピニオン
Opinion

TOP > [レクチャー](#) > [山下塾第7弾 防災と三助](#) > 山下塾第7弾 第四回講座 共助について

山下塾 第7弾 防災と三助

山下 輝男

第四回講座 共助について

初めに

第四回講座では、共助について検討しましょう。

共助説明項目

共助について、以下のスライドに示す項目について逐次説明します。

Ⅱ 共 助

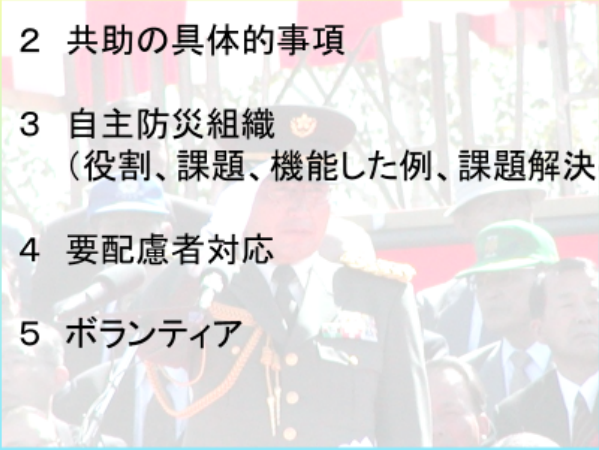
1 共助全般

2 共助の具体的事項

3 自主防災組織 (役割、課題、機能した例、課題解決の方向)

4 要配慮者対応

5 ボランティア



共助全般

「共助」というのは、お互い助け合うという互助精神の発露であって、「自分達の街は自分達で守る」という行動です。隣人関係が希薄になりつつある現代社会ですが、そのような社会を一度見直して、未曾有の大災害等に対して、どうすればいいのか考えるべき時代になってきています。個人の力は小さくても、それらが集まった地域の力は無限の可能性を秘めているのではないのでしょうか？

防災における共助を通じて、我々が失ったものを回復したいものです。

共助の重要性を例えば発災直後の人命救助で見てみましょう。自力脱出も多いのですが、近隣住民により救出された人の多いことにもいざという場合に助け合うことの重要性を示しているのではないのでしょうか。

1 共 助 全 般

○共助:「自分達の街は、自分達で守る」

- ・ 昔: 向う3軒両隣→今: 隣は何する人ぞ
- ・ 遠くの親戚より、近くの他人

○共助の重要性 (阪神淡路大震災の事例)

- ① 神戸市の要救助者のうち救出割合
約**85%**を一般住民が、約**5%**を消防団
- ② 自力脱出困難者約35,000人のうち
77%を近隣住民が救出

*自力脱出者多数

* **自助:共助:公助=7:2:1**



共助を担う組織や共助の具体的事項

共助は個人個人が被災した人を助けるというよりも、ある程度の組織力を持って対応することがより効率的と言えるでしょう。そういう意味での組織としては、災害対策基本法に規定されている自主防災組織が中核なのでしょう。然しながら、近年の災害の頻発に伴い、災害救援における共助を目的とし、或いはそれらをも含んだ組織も増えつつあると云えます。

互助・共助の具体的事項、期待したい事項は何でしょうか？これらの組織は云わば素人集団であって高度なことを期待できるわけではありません。云うならば、公的機関の手の届かないところを補う、被災者の身近にあって痒い所に手の届く存在として活動することが多いのではないのでしょうか？

共助を担う組織等、共助の具体的事項

○組織等

自主防災組織等が中核であるが、
他に民間企業、公共的団体、NGO・NPO、ボランティア

○具体的実施事項

- ① 警報伝達(周知徹底、特に災害弱者対応)
- ② 避難・誘導(集団避難、* 自力避難困難者支援)
- ③ 避難所の開設・運営(管理運営の主役)
- ④ 救援(搜索救助、物流管理、救急、消火)
- ⑤ 被災状況の報告・通報
- ⑥ その他



自主防災組織について

自主防災組織についてまず基本・現状を押さえておきましょう。①～④は基本的事項です。組織率が思いのほか高いと云えると思いますが、その実態や如何に・・・

自主防災組織に期待されている事項はスライドのような事項ですね。これらをどの程度実施し得るのかは、個々の組織の実力により異なるのは当然なのでしょうが。

3 自主防災組織：概要

- ① 根拠 災害対策基本法5条に規定、
市町村長が育成責任、市町村の助成制度あり
- ② 住民の隣保協同の精神に基く自発的防災組織
- ③ 町内会や自治会等を核又は単位に組織
- ④ 組織率：80.0%(H26/4/1)(内閣府資料)
(市町村数 1657/1742)
- ⑤ **非常時の役割等**
初期消火、救出・救助、情報の収集等、避難誘導
避難所の管理運営、安否確認、要配慮者支援

自主防災組織の課題等

既にやや悲観的なコメントを述べましたが、自主防災組織の課題は何でしょうか？

期待されるべき役割と実態と云いますか、現状との間には相当の乖離があると云うことが最大の課題でしょう。

その背景はスライドに記したとおりです。育成の必要性、重要性は、度々指摘されながらも、なかなか期待通りに育っているとは言えないですね。

しかしながら、その自主防災組織が実際に機能した例もあります。

自主防災組織：課題

期待されるべき事項と実態との乖離

- ① 住民の自発性を基礎としないため住民の関心希薄
- ② 町内会・自治会母体 ∴ 活動低調
- ③ 活動が地域等により区々
- ④ 役員等の高齢化、リーダー不在
- ⑤ 資器材不足、資器材切り替え困難
- ⑥ 活動や訓練のマンネリ化・低調、若者の参加少なし

参考 自主防災組織が機能した例
H16新潟中越地震の教訓を踏まえた自主防災組織
の整備と訓練実施

新潟県柏崎市北条地区（高齢者の割合は36%）では、平成16年の新潟県中越地震の被災経験をいかし、地区コミュニティ内の自主防災組織の強化、防災訓練の実施、要援護者リストづくりの充実などの防災体制の強化を図っており、平成19年7月に発生した新潟県中越沖地震の際には、被害状況の把握や必要な物資の調達などを迅速に行うことができたと言われている。（コラム 災害の経験を踏まえた地域コミュニティによる防災体制の強化（新潟県中越沖地震）

http://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/h20/bousai2008/html/column/clm_1b_0joshu_09.htm

課題解決の方向性

自主防災組織の活性化を図るためには様々な方法が工夫されている。それを列挙すればスライドの通りである。特に⑤に記した事項が重要かなと考える。

地域の予期される災害や地域住民の状況を踏まえた住民の関心事項の高い事項の解決を目指した取り組みが必要であり、そのことにより自主防災組織が活性化されるものとする。「自主防災組織 好取り組み事例」で検索すれば、消防庁や各都道府県の関連記事が多数ヒットする。

自主防災組織：課題解決の方向

① リーダーの養成、役員選任の工夫

② 様々な地域活動団体との連携

③ 魅力ある防災訓練の実施

④ 好取組事例の共有

⑤ 住民の関心の高い事項の自主解決を
目指した活動からの活性化を
(要配慮者等の支援、安否確認、児童生徒の支援等)

⑥ 行政の適切な関与

キーワード▶ [三助](#)・[公助](#)・[共助](#)・[大規模災害対処](#)・[山下塾](#)・[山下塾第7弾](#)・[自主防災組織](#)・[自助](#)・[防災](#)

いいね！2

INDEXへ戻る

次の記事 [山下塾第7弾 第五回講座 要配慮者とボランティア](#)

前の記事 [山下塾第7弾 第三回講座 応急対策活動と国民の役割](#)

[ページの先頭へ](#)

関連サイト

[防衛省](#)

[統合幕僚監部](#)

[陸上自衛隊](#)

[海上自衛隊](#)

[航空自衛隊](#)